

岩手県立花巻清風支援学校 令和4年度 第3回学校運営協議会報告書

1 日 時 令和5年2月22日(水) 10:00~12:00

2 会 場 本校会議室

3 出席者

(1) 学校運営協議会委員出席14名 欠席1名

会 長 学識経験者

副会長 北上地区、福祉関係者

A委員 地域関係者

B委員 地域関係者

C委員 遠野地区、福祉関係者

D委員 NPO関係者

E委員 企業関係者

F委員 企業関係者

G委員 行政関係者

I委員 教育関係者

J委員 PTA関係者

K委員 同窓会関係者

L委員 同窓会関係者

校 長 本校職員

【欠席】

H委員 教育関係者

(2) 岩手県教育委員会事務局2名

学校教育室特別支援教育課長

学校教育室特別支援教育担当指導主事

(3) 本校職員11名

4 内容

(1) 開会：副会長

(2) 校長あいさつ

(3) 会長あいさつ

(4) 今年度の地域との連携・協働の状況について

(5) 協議

①学校評価について

【中学部副校長】

・児童生徒の回答状況が低い理由は「回答できる児童生徒のみが回答する」ためである。また、実施時期にコロナが流行しており、欠席者もいたため100%に近い数字には近づけなかった。

【会長】

- ・教職員の多忙化について、皆様の職場でこんなことを注意しているとか、参考になることなどがあればお聞きしたい。中学校については多忙化について求められているものがあるかと思うがいかがか。

【I委員】

- ・行事の精選、見直しについては喫緊の課題ということで、市内の学校の中でも本中学校は先陣を切って行っている。中学校では、部活動が多忙化の原因になっているが、昨年度から平日の部活動を見直して、勤務時間を過ぎての部活動を廃止した。吹奏楽部は保留中だが、部活動は父母会練習という形に移行している。令和5年度から3年間で段階的に土日の部活動も地域に移行することになっているため、これの先駆け的な形で平日やっている。先生方は、部活以外の業務があり難しいところもあるが、自分の仕事を終えて定時に帰るところを少し改善できた。当然、保護者の理解については、摩擦が出てくるところはあるが、それを恐れてはいつまで経ってもできないわけで、保護者と話し合いながら進めている。
- ・先日、中学校の特別支援学級の次年度の計画で、各学校の支援学級の子どもたちの交流行事が復活する話が出た。宿泊を伴う行事である。この行事のシステムが数年前のイメージで、いろいろ見直しが必要と感じている。昨今、本校でも非常に指導が難しい情緒障害の子たちが増えている。現在、本校では知的障害1クラス、情緒障害2クラスあり、合わせて生徒4名である。ここで、教職員定数は、4名の生徒に対して、教員の増が1名ということになっている。見直した方が良いのではないかという話を今後したい。
- ・花巻清風支援学校でも伝統的にある交流行事も重要かもしれないが、「子どもにとって」とか「教職員の負担を考えて」、必要じゃないものを縮小していった方が良いものもあると思う。
- ・行事の精選やコロナ禍の3年間の中止から、再構築する中で見直していった方が良いものについては、見直していった方が良いのではないかと思う。また、学校間交流については、本校でもオンラインで実施した。生徒にとっては有効な行事でも、いろいろとやり方を見直していければ良いと考える。

【会長】

- ・まさに中学校では、新聞記事も含めて多忙化が言われている。情緒障害の教育課程は通常の教育課程で、知的障害の教育課程は「合わせた指導」で指導できる。そのため、教員配置については、情緒障害学級では教科学習が可能ということで、通常の先生方が指導できる。しかし、知的障害はそうはいかないため、知的障害の子どもたちで行ってきた場合は教職員数についての問題はなかった。ところが、中学校では、情緒障害等の厳しい子どもたちが多く入ってきている。これは、一つの学校だけでは解決できない問題と思う。ただ、コロナでだいぶ交流も含めて行事の見直しが図られた。保護者からは、なかなかコロナで、行事ができずに残念だったという話もあるが、この問題をゼロベースで考えたときに、良いものは引き継いで、精選も必要と思う。花巻清風支援学校はどうか。

【校長】

- ・働き方改革は、結果的に教職員に余裕ができたことで、児童生徒の教育活動の内容の質の向上につながるということを念頭に置いてやっていく必要があると感じている。やはり、時間資源は限られているため、その限られた時間をいかに有効に使っていくかという視点で、本校においても、目的が重複しているような業務がないか見直すということと、場合によっては業務の優先順位をつけて、下位のものはいき切って捨てることも必要なのではないかと考えている。

- ・本校は知的障害のある子ども中心の学校で、教科を合わせた指導ということで、様々な行事や生活単元学習という単元をまとめた学習中心に行っている。少し欲張りすぎて、いろいろな活動を詰め込んでいく中で、その一つ一つの学習効果を児童生徒一人一人に汎化させていく時間をきちんと確保できているのかというところも見直す余地があると考えている。行ったものを確実に児童生徒の力にして、そして、また更に次の段階に向かうといったサイクルも学校の中で必要なのではないかと考えて、現在そういったことを踏まえて業務を見直している状況である。

【会長】

- ・今、行事の話も出てきたが、保護者の方はどのようにみているか。

【J委員】

- ・現在、高3の息子がお世話になっている。現状は、コロナの関係上、だいぶ行事等が縮小されて高校1年生から3年間でほぼいろいろな行事がカットされてきた。一番大きかったのは、修学旅行だった。息子が一番楽しみにしていたが、いろいろ尽力いただき、県内ではあったが行くことができ良かった。行事がなきゃないで何とかやってこれた部分もあるが、行事が減ったことによって子どもの成長はどうなっているのだろうと感じることもあった。しかし、そのような「保護者にとって見えない部分」を情報共有しているので、そこはうまくやってこれているとは思っている。どうしても保護者からの意見とすると「こうしてほしい」「やってほしい」が多くなる。自分たち親にできないことをやっていただくので、先生たちにはかなり負担が大きいと思う。わがままを言っていると思う。しかし、保護者も負担があり、自分ができないからこそ先生の力が助かる部分なので、先生たちの負担も軽くしつつ、考えていけたら良いと思う。

【会長】

- ・修学旅行については他校の様子を聞いても大変だったようだ。その中でも子どもたちが成長できるように、どういう取り組みが良いのか考えたと思う。ただ、多忙化もあるが、本題本筋はそこではなく、そこをクリアしながら尚かつ、子どもたちがどう成長したのかを保護者と共有できることが最終的な目標である。行事をなくしたら子どもの成長が全然見られなかったら「何のための」ということになる。そこは是非、今のご意見を聞いていただきたい。
- ・職員の多忙化について、会議等のペーパーレスはだいぶ前から話題になっている。花巻清風支援学校ではどのような状況か。

【総括教務主任】

- ・本校はこの本校舎だけでなく、遠野と北上に分教室がある。そのため、オンライン会議には取り組んでいる。分教室については、ペーパーレスで会議を実施しているが、本校舎140名程の職員は、ずっと紙媒体でやっている。コロナ禍になって集まることができなくなったが、それを契機にオンライン化が進み各職員室と分教室とこの会議室をつなぎ、オンラインで会議を行っている。通信状況が良いことも確認できたので、先月の職員会議からペーパーレスを始めた。現在、不具合がなかったか、アンケートをとっており、その反省を踏まえつつ今後もやるという状況である。

【会長】

- ・ペーパーレスについては是非進めていただきたい。最初導入するときには、どうしても紙媒体の方が良いという意見が出るが、ペーパーレスの方が時間ギリギリまで資料を作ることが可能だし、印刷や丁合の手間がなくなるだけでも、かなり業務が軽減される。
- ・岩手大学にいたが、岩手大学では最初は戸惑いもあったが、慣れてしまうと、会議の資料に

については「ここにアクセスしてください」と書いてあるだけで、それぞれの先生がパソコン上で確認するだけになる。1ページから150ページまである資料も、ページを開く際にはボタン一つで、紙を開くよりもずっと時間的効率は良い。何よりも多忙化に役立つ。この点について、民間ではどうか。

【F委員】

- ・私は今48歳で、商工会議所の青年部の会長も経験してきた。若い人は、「ペーパーレスをやる」と言えば明日にでもできるが、厄介なのは先輩方である。メールを受け取ってくれない、開いてくれないのが現実である。若手でももちろんメールが苦手な方もいる。親御さんを含めてやるよりも、まずは学校の内部から始めていくのが良いだろう。私も老眼が始まったので、紙の小さな文字よりもデジタルの方が字も大きくできるから便利と思う。今は、親御さんなど、関係者全員にペーパーレスを徹底させるのはまだまだ無理と思う。この話は企業とか大学とかとは違うと思う。そこは苦勞を察する。

【会長】

- ・保護者の方も含めてということだが、職員会議とか学校の中が少しでもペーパーレスにできれば良いと思う。話を戻すが、行事の精選は難しい。ずっと前から言われているが、「作るのは簡単、クラッシュは大変」。やめるのはその倍の体力がいるとよく言われる。ただ、そこは委員からも話があったが、「やめても本質だけは失わない」ということが基本になると思う。この点は学部によって何か違いはあるか。各学部等では、このような話し合いはされているか。

【高等部主事】

- ・年度末反省というのを学校ではやっている。教育状況を見直して振り返りを行うものである。その中で、「この行事は本当に必要だったのか」という視点で反省をし、来年度取りやめにするもの、これは無理しなくても良いものなど、見直して来年度につなげているところである。無くすことでの教育的効果について、読めないところもあるので、来年度はチャレンジする部分もある。

【会長】

- ・他の委員から何かあるか。

【小学部副校長】

- ・先ほどの「連携・協働」のところで話した「花巻ふれあい文化祭」が、今年度で23回目を迎える。花巻という地域の障害のある方々の活動となる良い機会ではある。しかし、本校事務局ということで普段の教育活動をしつつ、他の事業所や学校と連絡を取り合ったり、会場を借りたり、舞台発表の準備をしたりということで、本当に学校の教育活動と一緒にするのが厳しい。ただ、本校だけで決められないため、上の団体の「花巻ふれあいネット」と相談しながら、「何とかしたい」ということで、考えているところである。
- ・来年度はステージ発表をしようということで、花巻文化会館をお借りしている。

【会長】

- ・今年度については展示をして終わったとのことである。
- ・各団体と相談しながらということで、厳しくなってきた。作品展については、だいぶ作品を展示している。ステージ発表をご覧になった方いますか。

【J委員】

- ・保護者なので、小学校から高校までお世話になっている。何年か前か、息子が発表の対象学年の際に見に行った。いろんな施設のお子さんたちが発表しており、盛大な雰囲気になるた

め、そのくらいの活動をやるとなると、おそらく先生たちが大変になるのだと思う。本校の生徒たちの発表の準備をしながら、いろんな準備をしているのだと思う。それで、大変なのかなという気がする。

【L委員】

- ・私の子どもも、もう二十歳になっているが、以前からふれあい文化祭には、友人を巻き込みながら参加してきた。ここ数年、なくなって寂しく感じていた。参加者の中には、民生委員や障害者に対して理解のある方がたくさん参加した。私も一役買って、販売会で物を売らないといけないから「これ、いいよ」とか勧めたり、「中学部の製品が売れないから頼む」とか言われて、販売したりした。コロナ禍でも地域の方からは「ふれあい文化祭ないの？」と聞かれた。ふれあい文化祭では、「手をつなぐ育成会」の方たちとも1年に1回、そこで会って「元気だった？」などと話して、普段と違った触れ合いもある。先生たちが大変なのは分かる。しかし、子どもたちを舞台に出して、文化会館の大きな舞台を踏ませてあげてほしい。息子も今でも「楽しかった」と言っている。そういう話が先生方には届いてないかもしれないが、陰では「学校の先生方、よくやってくださってるね」と言ってるので、是非これからも頑張ってもらいたい。花巻の一市民としてもお願いしたい。

【会長】

- ・花巻文化会館のステージを使った活動は盛んである。私も若葉町にいたときに青年団で女装して、ステージに立った記憶がある。たしかに、ステージの広さはなかなか経験できないものである。ただ、学校から話があったが、おそらく役割のところまで100%学校が全部ということになると、厳しいのだと思う。その辺は、話し合いを続けながら良い方向を探るということになってくるのでしょうか。今のご意見も参考にしながら検討することをお願いしたい。多忙化だけを前に出すということではなく、ご意見の通り子どもたちの良さということも大事にしたい。

【F委員】

- ・いろんな働き方改革があるし、今、話されたように「是非、続けてほしい」という気持ちは本当だと思う。
- ・アンケート結果の18番を見ると「働きがいのある職場ですか」に対して、A「よくできている」B「だいたいできている」を合わせると94.9%と高い。これは素晴らしい。なかなかこんな職場はないと個人的に思う。製造業で、アンケート取ったら大変なことになると思うので、本当に素晴らしい。そう思っていない人が10人くらいいるみたいだけど、でも、6人。こういう人は悪く言えば、働き甲斐搾取というのだろう。
- ・17番のアンケート「働き方改革を推進していますか」にしても、正直、企業から言えばABCを足せば、90%以上なので素晴らしい。D「できていない」とE「わからない」の13人は無くならないと思う。組織だから。C「あまりできていない」の31人も軽視はできないけども、DEの11人のために保護者が喜んでくれるものをやめることは全然ないと思う。少し言いすぎかもしれないが、18番を見ると素晴らしい結果だなと思う。また、17番を議論するのであれば、アンケートというのはあくまでも主観的な評価だから、実数を見ないと何も議論できない。18番を見れば素晴らしいと思うので、先生方、頑張ってもらいたいと思う。

【会長】

- ・保護者の方から児童生徒について、ご意見をいただきたい。保護者の方からは自由記述の中で「タイムリーな情報提供」ということで、この点についてどうか。

【J委員】

- ・この記述だが、これはよく分からない。タイムリーな情報提供というのは、学校からの手紙など、行事があれば必ずいただいている。だから、私はこの点についてはあまり思っていない。あるとすれば、寄宿舎の場合だろう。寄宿舎はその週にあったものは、その週末にしかもらえない。そこくらいではないのかなと思う。

【会長】

- ・私もホームページも充実しているし、連絡帳でも連絡を取り合っているのではないかなと思いつながら聞いていた。
- ・昨年、保育園のスクールバスの置き去りのニュースがあったが、スクールバスの安全装置はどうなっているのか。

【事務長】

- ・本校のスクールバスは、通学には使用していない。学校行事だけで運行している。過日、県教委から安全装置は通学に使っているバスだけに付けるとの連絡があった。残念ながら本校のバスには付かないが、学校行事等で使用した際には、先生方が全員降りたことを確認するし、運転手が必ず最後に見回るように指示している。したがって、大丈夫かと思う。

【会長】

- ・スクールバスというと花巻清風支援学校も対象になるかと思った。私が、現役のときに「行事のときにいなくなったと思ったら、バスの中で眠っていた」という事例があった。もし、装置が入らないのであれば、今一度、徹底してもらえれば良いと思う。他にあるか。

【F委員】

- ・アンケートなので数字で見えてしまうのだが、私は%よりも実数の方が気になる。特に保護者のアンケートの12番「いじめのない学校作り」を見ると、問題なく学校生活を送れていると思う。C「あまりできていない」であってもそれは受け入れていると思うが、E「わからない」が14人もいるので、大変だなと思う。これは、先生方が向き合っているからだと思うが、ここを一人でも減らす必要があると思うし、保護者の思いとかもあるから、難しいことだと思う。プライバシーとか話しにくいこともあると思うが、把握している範囲でお聞きしたい。

【中学部副校長】

- ・この「わからない」は、自分で言葉を表出できないお子さんの保護者がおり、学校でどのような状況が起きているのか、家庭だけでは「わからない」という方もいる。ただ、14人全員ではないだろう。
- ・先ほどの「タイムリーな情報提供・発信」という話が出たが、学校側から情報が正しく伝わってこないという「わからなさ」がここに出たのだと思う。

【会長】

- ・今後は発信の仕方や伝え方についても検討していただきたい。

<10分間休憩>

【会長】

- ・学校評価について、他に何かあるか。

【A委員】

- ・今回、この評価結果を見て、まず感じたことは大半の方が肯定的な回答をしていることであ

る。驚異的な数字である。この職員、保護者、生徒に対する質問内容は、一般に通じるものもあるし、学校独自の質問もある。県教育委員会が統一して作ったものではないと感じた。これは、花巻清風支援学校で独自で作ったものなのか。それから毎年同じアンケート項目でやっているのか、年によって変わるのか、その辺を教えてください。

【小学部副校長】

- ・アンケートの質問項目は、学校ごとで作っている。なるべく、年度で比較できるように質問内容はできるだけ変えない。若干、その年で変わる部分もあるかと思うが。また、3年に1回くらいの見直しを行っている。基本的には、前の年と比較できるように取り組んでいる。

【A委員】

- ・その件は分かった。率直に感じたことを言うと、アンケートというのは設問の仕方、どういう問いかけをするかによって結果はかなりブレる。このような驚異的な数字が出る、ネガティブな話が少ない、ということは質問項目を例えば保護者が作ったアンケート、保護者が独自に作ったアンケート項目、そういった考えとか発想があっても良いのではないかと。教職員に対しては学校がやるでも良いし、第三者が設問しても良いが、その辺はどうなのか。いわゆる、一時流行った付度という部分が少しにじみ出ていると思う。ちょっと失礼な言い方だが、そんな感じがする。保護者会独自で学校に対して満足しているかどうかのアンケートを作るなど、こういう意見は過去にあったのか、なかったのか、教えてください。

【小学部副校長】

- ・その辺はやっていない。ただ、PTA活動についてはPTA独自でアンケートを取り、反省をしている。学校全体としては実施していない。

【会長】

- ・A委員が言うのはもつともだと思う。質問の仕方によっては高くでたり、逆に低くでたりする。非常に質問の仕方は難しく、アンケートを取るときには精度の良いものをとっていかねばならないので、まさに付度ないようにすることが必要である。もう一度、项目的に見ていただきたい。それと、委員からあったようにEという評価、少数の意見をどう吸い上げて確認していくかが学校運営では大事と思うがいかがか。

【校長】

- ・この質問項目以外でいろんな意見を伺いたいということで、自由記述の欄を設けさせていただいた。今、いろんな委員からいただいた意見を参考にしながら、次年度の設定について考えたい。

【会長】

- ・説明の通り、3年続けることが多いが、学校によっては5年くらい同じ質問項目で経年変化をみていく統計の取り方もある。それだけでなく、その年度年度で、聞きたいことをトピック的に入れていくとまた、アンケートの質がどんどん良くなっていく。次年度、もう一度、この項目を確認し精査していただき、今のような考え方を参考にしながら見直し、検討していただきたい。

②令和5年度の学校運営について

【校長】

- ・令和5年の学校運営計画の素案だが、いろいろとご提言を賜り、成案に向けて進めたいと考えている。よろしくお願ひしたい。
- ・校訓については、本校不変のものである。「明るく、強く、たくましく」そのものである。教

育目標については、我々、特別支援学校に託された使命であり、本校で学んでいる児童生徒を自立と社会参加に向けて、育てていくということがまずは一番大事なところと捉えている。教育目標「一人ひとりの可能性を伸ばすとともに、自立と社会参加に向けて主体的に生きる人間を育成する」ということを教育目標として、設定しており、その目指したい姿として、心身の健康面については「丈夫な体と思いやりのある豊かな心をもつ人」それから思考力、判断、行動力という面から「自ら楽しさ、やりがいを見つけ、生き生きと生活する人」そして、礼儀、主体性を育む視点として「約束、きまりを守り、進んで行動する人」そして、対人対応、コミュニケーション、社会性という視点から「互いに気持ちを伝え、協力して活動する人」ということを目指す姿として考えている。その教育目標を受けて、経営方針ということで5点、ここに載せていただいた。

- ・岩手県の特別支援の推進の柱として「いわて特別支援教育推進プラン」というものがある。その中に3つのキーワードとして、「つなぐ」「いかす」「ささえる」というものが示されている。その3つのキーワードを踏まえ、この経営方針5点をここに示した。
- ・1点目は「教育的ニーズを把握した児童生徒主体の授業づくりの充実」ということで、これは特別支援学校で個別の指導計画や個別の教育支援計画など、個々のニーズに応じた授業を進めるうえでの指標となりうるものを作成している。更なる充実を図っていきたい。
- ・2点目が教育目標に直接つながるもので「自立と社会参加に向けた教育の充実と希望進路の実現」ということで、児童生徒の体験や経験の幅を広げる学習機会を設定おり、それぞれのお子さんの自己選択、自己決定を行う力を育てていきたいと考えている。
- ・3点目が「交流および共同学習の充実と推進」で、本校で学ぶ児童生徒の皆さんは学校卒業後、それぞれの地域社会の中で生活していくため、在学時からの地域社会との関わりをもった学習を継続させて、経験を積み重ねていくことを大切にしている。この交流および共同学習を推進することによって、相手の学校の児童生徒の皆さんにも、本校で学ぶ児童生徒の状況を理解いただき、ひいては共生社会の実現というところまでつなげていければという願いをもっている。
- ・4点目は「健康・安全教育および防災教育、復興教育の推進」ということで、学校は児童生徒にとって安心安全に過ごせるものでないことを前提に取り組んでいきたい。それから防災、復興教育については、東日本大震災を知らない世代の子どもたちも増えてきているため、防災教育を展開していく中で、地域に生きていく誇りや自覚を育むことに取り組んでいきたいと考えている。
- ・5点目は「開かれた学校づくり、信頼される学校づくりの推進」ということで、特別支援学校である本校は、この花巻市太田の地域に存在し、地域の皆様に50年以上支えられてきた。そして、「今がある」と思っている。引き続き関係の皆様からのご協力を仰ぎながら児童生徒に自己有用感、自己肯定感を育む教育活動も展開していきたい。
- ・今、示した経営方針を柱として、次年度の教育活動について計画を進めていきたいと考えている。ご意見をお願いしたい。

【会長】

- ・質問等あればお願いしたい。経営方針の中に「いわて特別支援教育推進プラン」とあるが、これは県の教育委員会が示したもので、次年度から新しく変わる。
- ・経営方針の中で、校長から話があった(2)の「自立と社会参加」「希望進路の実現」というところで、自己決定、自己選択という話があったが、私自身はまさにこれがキーワードと思う。福祉でもだいぶこだわって、障害の重いお子さんでも「自分で決める、可能な限り」と

いうことで進んでいるかと思う。したがって、ここについては、学校現場は「子どもに言葉がない」とか「意思があまり出てこない」等、言うことがあるが、そうではなく、重いお子さんでもいろんな表現があり、自分の意思を伝えることは可能である。是非、特別支援学校ならではの自己選択、自己決定というところには、こだわってほしい。それがこれからの流れを更に進めていくことになると感じている。

【副会長】

- ・今、自己選択、自己決定という話があったが、福祉の世界では自己選択、自己決定は10年くらい前から言われ始めて、どのようにやっていったら良いかという迷いがあった。「今日のご飯に醤油をかけるか」「マヨネーズをかけるか」そういったものではないということが分かってきた。私は、入所施設の管理者だが「家に帰りたくないの？うちの施設で良いの？」と利用者に問いかけたか、という話だと思う。自分の人生に関わる自己選択、自己決定である。重度の方でも、どうやって自己選択や自己決定をしていくか、そういう話が2、3年前から言われてきている。これは、津久井やまゆり園の事件が大きかったと思う。「入所施設で良いのですか。本当に家に帰らなくて良いのですか」と問いかけ、本当の気持ちを何で我々がくみ取れないのか、という話でもある。重度の方でも、そういった気持ちは必ずあるはずだということを大前提にして「本当の気持ちを分かってあげてくださいね」という話が福祉の世界では言われている。しかし、利用者の方の気持ちを毎日毎日裏切っている部分もある。なかなか難しいというのが現状である。「今日何を言いたいのか」というと、本音ってそこだと思う。実は、意思決定支援とは「たぶん家に帰りたいのだろうな」ということを我々は大前提に予想している。それに向けて利用者の気持ちをつくっていった方が効率的なんじゃないかという考えも持ち始めている。

【会長】

- ・福祉と教育で分けるつもりはないが、その辺のところ为学校現場も時々疎い時がある。

【F委員】

- ・どこかの芸術大学が燃料代が上がって学校の運営が大変になり、ピアノを撤去したとニュースになっていた。美術館でも電気代が上がって、骨とう品を収蔵しているエアコンを切ったというニュースも見た。学校の子どもたちを考えると、寒い時には温かくしなければならぬし、暑い時には涼しくしないといけないと思うが、これは経営計画で数字にはあがってこない。エネルギーが高騰していく中で、学校は問題なく使えるものなのか。

【校長】

- ・様々な値上がりに苦勞している部分がある。事務室でも予算等の再編に苦勞している。ただ、児童生徒の健康に差しさわりのある部分については、なるべくそこには影響が出ないように取り組んでいる。しかし、この先これ以上高騰していけば、朝の照明を全部つけることを控える時間を設けたりするなど、なるべく影響が出ないように考えながら、工夫していかなければならない。それは、課題の一つである。

【事務長】

- ・光熱費については、異常なほど高くなっているが、県議会で光熱費を特別に予算を増やしてくれたので、何とか助かっている。
- ・先ほど、校長から話があったが、暖房は朝が一番デマンドが高くなるため、最初1時間くらいは照明を絞っている。落ち着いた頃に照明を付け始めているため、アンケートを取った11月、12月は子どもたちからすれば学校が暗いと思ったかもしれない。また、各職員室の蛍光管は、LEDに交換し始めている。普通の蛍光管より値段が高価なため、一気に全部交換する

のは進まないが、少しずつLED化を進めている。

【会長】

- ・以前、盛岡市内の某支援学校で暖房費を出し渋ることがあり、県議会で大問題になった。特別支援学校の子どもたちだけが弱い立場とは言わないが、温度差に敏感な子どもたちが多くいる中で、一律に光熱費を削った対応はあってはならないことである。事務長もできる範囲の中でやっているということだが、頑張っていたきたい。あと、職員は暖房を切られる時間からは厚着して業務にあたっているかと思うが、是非、その辺のところもご理解していただきたい。私はこの学校の高等部に来た時に「ここって、昭和基地だな」と思った。風が入ってきて、吹き溜まりができていて、外が見えないというすごい豪雪地帯だと感じた。しかし、そんな中でも先生方は「寒い」と言わずに、ジャージ一つで頑張っている姿を知っている。先生方も頑張っていたきたい。

【K委員】

- ・2つある。令和4年度の経営計画と見比べたが、その中で、4年度は(1)に「生きる力が身につく教育を行います」という文言がある。しかし、今回はその言葉は無いが、それを含めて経営方針(1)が示されたのかという確認が一つ。また、令和4年度の経営方針では「保護者・同窓会」という文言が出るが、令和5年度の経営方針には「同窓会」とう文字が見えないということについては、少し残念に思う。

【校長】

- ・「生きる力」は生活の中で生きていくために必要なものであるため、そこは包括的に含めてこの目標、方針に記させていただいた。同窓会は、関係機関というところで包括的に入れたが、そこは改めて見直しをかけたと思う。

【会長】

- ・文言が無くなったから全然関係ないということではないと思う。校長には、書き方について検討していただきたい。

【B委員】

- ・道の駅に子どもたちの展示物やプランターを設置していただき、ありがたく思っている。私が気になっていることは、せっかく道の駅にプランターを置いてもらっているが、水やりをあまりしなくても良い花と、水やりを常にやらなくてはいけない花が混在している。駅長から水やりの時期の連絡も来る。花は生き物なので、日照りや雫があるときもあるので、花の状況を見て水やりをやらないといけない。水やりは水がなければ難しいと思うが、道の駅には外に多くの水道があるわけではないため、もし、来年度もプランターを置くのであれば花の種類や水やりについて、相談に乗ることができる。できれば、花の種類をちゃんと考えていただければ大変助かる。

【中学部主事】

- ・中学部でも水やりは話題になっている。毎週でも水やりをやりたいという案も出ている。スクールバスを利用した活動はなかなか難しいが、来年度はその回数を増やして水やりに行つて、掃除もしたいという話も出ている。あと、訪問の生徒もいるため、職員が外に出かけたその帰り道に来年度は道の駅に寄つて水やりやお世話をしたいと考えている。

【会長】

- ・花は手を掛けただけ綺麗に咲く。可能な範囲でお互い連絡取り合いながらお願いしたい。他にあるか。

【E委員】

- ・先ほど、副会長から自己決定や自己選択の話が出たが、私はこういったところの卒業生が社会人になって地域生活に出たときに後見人として、自己決定、自己選択をする場をサポートしているのだが、やはり、自己選択をする上でもいろいろな経験というものが必要であると感じている。しっかりした家庭で育った卒業生はいろいろな経験をされている方はいるが、中には家庭にも問題があって、こういった行事の経験がほぼ人生の経験の全てという方もいる。社会人になったときに今後の就労とか、生活環境を相談する上で、学生時代の思い出にすごく頼って考えざるを得ない方も多くいるので、働き方改革や予算等の問題は多くあるかと思うが、学校行事があまりに減ってしまうと生徒の将来に影響が出ないかと非常に心配している。

【会長】

- ・進路との関わりについて、この業界には「経験が発達を促す」という金言がある。経験することによって伸びることがある。経験しないことは、苦手意識を持ってしまう場合もある。何でもかんでも経験すれば良いということではないが、その辺については行事と絡めながら、考えていただけたらと思う。最後に、校長から今日の会議についてお話していただきたい。

【校長】

- ・本日は様々、ご提言を賜り感謝申しあげる。いただいたご提言を基に次年度の経営計画も見直しながら反映させていただきたい。また、引き続き、次年度以降も本校の教育活動にいろいろとご協力賜ればありがたい。

【会長】

- ・続いて、県教委からお願いしたい。

【特別支援教育課長】

- ・委員の皆様には今年度3回の学校運営協議会にご参加いただき、感謝申しあげる。昨年度は、委員の方と学校で意見がすれ違ってしまい、運営の難しさがあった。今年度は忌憚のない意見をたくさん頂戴できたし、学校としてもそれを受け入れて、改善していくということで、学校運営協議会の形ができたと思う。まだまだ、言い足りないところ、こうしてほしいところがあると思う。学校に対しても、教育委員会に対してもあると思うので、今後ともたくさん意見を頂戴したいと考えている。
- ・今年、関わらせていただいた中で、「障がいのあるお子さんたちは皆さんからお力をいただいて、生活していただくだけではなく、きっと地域の中で貢献できることもたくさんあるはずだ」という話がとても印象に残っている。2回目の学校運営協議会で報告があった分教室の取り組みで、ベンチをつくるとか、マラソン大会の前に環境整備をしたとか、そういう活動が印象的だった。
- ・私の中では、子どもたちが地域の中で活動する、主体的に活動する、役に立っていく、そういう活動を是非これからもこの場で、一緒に話し合っていけたらありがたいと思っている。
- ・「働き方改革」と「これまでの活動の良さ」その2つのせめぎ合いのようなところもあったが、そこを含めて多様な意見をいただいたことは、今後の学校運営、それから教育活動の充実に生きていくのではないかと考えている。多方面から意見をいただくことがこの学校運営協議会の良さだと思う。是非、これからもご協力いただきたい。

【会長】

- ・今日この会は終わるが、委員の皆様には、何かあれば校長先生に伝えていただけたらと思う。今後もしよろしくお願ひしたい。

(6) 諸連絡

(7) 閉会：副会長